

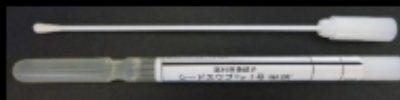
採取容器の種類（微生物検査）

2022年12月更新



50cc滅菌スクリーコップ

- ・喀痰は、唾液の混入を最小限にする。
 - ・ガーゼは、必要な部分を切り取り容器に入れる。
 - ・乾燥や検体漏れを防ぐ為、蓋は完全に閉じる。
 - ・液状検体は漏れる為、使用しない。
- 喀痰（一般菌）、ガーゼ、組織、便（抗酸菌）など



シードスワブγ1号（一般菌便培養容器）

- ・自然排便が困難な場合、綿棒を肛門に挿入して採便する。
- ・検体採取には、患者さんへの説明と協力が必要です。
- ・依頼時に特記事項（海外渡航歴・渡航先・飲食物など）を明記する。



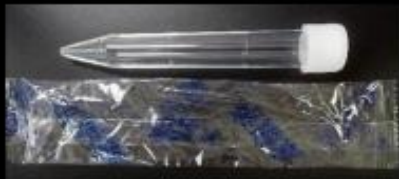
シードスワブγ2号

- ・シードスワブγ3号より細い綿棒で、用途に合わせて採取しやすいほうを選択する。
 - ・付属の綿棒以外は入れないこと。
 - ・綿棒を入れる部分は、保存培地になっている。
- 口腔内、鼻腔、耳漏、眼、膿、尿道、膣分泌物など



シードスワブγ3号

- ・シードスワブγ2号より太い綿棒で、用途に合わせて採取しやすいほうを選択する。
- ・咽頭などの口腔内は、うがいを行ない常在菌の混入を最小限にする。
- ・付属の綿棒以外は入れないこと。
- ・綿棒を入れる部分は、保存培地になっている。



滅菌スクリュースピッツ

- ・液状検体に使用する。
- ・検体が漏れないようにスクリュースの蓋をしっかりと閉める。
- ・カテ先などは、滅菌されたハサミで適当な長さに切って入れる。
- ・カテ先などは、滅菌生理食塩水を2～3滴入れ乾燥を防ぐ。
尿、胆汁、腹水、髄液、カテ先、尿中抗原迅速検査など



ケンキポーター

- ・嫌気性菌を疑う場合に使用する。
- ・必要時、微生物検査室に取りに行く。
- ・容器内には炭酸ガスが充填されており、嫌気状態になっている。冷蔵保存する。
- ・瓶底の寒天には指示薬が添加され、嫌気状態で無色、酸素が混入するとピンク色に発色する。ピンク色になっているものは使用しない。
- ・好気性菌も同じ検体で検出可能。
膿汁など



血液培養ボトル

- ・橙（嫌気ボトル）、青（好気ボトル）、桃（小児用好気ボトル）
- ・穿刺前に十分消毒する。
- ・冷蔵保存はしない。
- ・嫌気ボトル→好気ボトルの順に血液を接種する。
- ・検体ラベルは、ボトルのバーコードに被らないように貼る。
- ・採血量は、成人8～10ml、小児0.5～5ml。
- ・採血量が多いと、偽陽性やボトル内で凝固することがある。
- ・採血量が少ないと、偽陰性や検出の時間が延長する。
- ・採血時期は、原則として熱の上がり始めで抗菌剤投与前。



喀痰処理器

- ・液体が漏れないようにしっかりと蓋を閉める。
- ・抗酸菌培養の喀痰採取容器



専用容器

- ・容器には、滅菌蒸留水が入っている。
 - ・血液、骨髓液を1ml入れ、数回転倒混和を行う。
 - ・必要時に微生物検査室に取りに行く。
- 血液（抗酸菌）、骨髓液（抗酸菌）



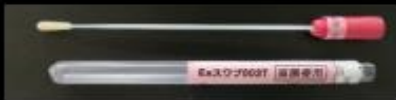
滅菌容器

- ・検体が分けられない場合、一般菌と抗酸菌は同じ検体で検査可能。
- 気管支洗浄液



滅菌綿棒（カルポータγ）

- ・A群溶連菌迅速検査専用スワブ。
- ・咽頭、扁桃から採取する。
- ・シードスワブγで採取された検体では検査できないので注意する。



直腸スワブ

- ・スワブを1cmほど直腸へ挿入して便を採取する。
 - ・必要時、微生物検査室に取りに行く。
 - ・シードスワブγで採取された検体では検査できないので注意する。
- ノロ迅速検査



鼻腔用スワブ

- ・スワブを鼻腔に挿入し、鼻咽頭を数回擦過して検体を採取する。
- ・必要時、微生物検査室に取りに行く。
- ・シードスワブγで採取された検体では検査できないので注意する。
インフルエンザウイルス迅速検査



無滅菌Lサジキャップ

- ・無滅菌容器であるため、一般菌培養には使用できないので注意する。
- ・キャップに付いているサジを用いて便を容器にすくい入れる。
- ・便量は母指大必要である。（スワブ不可）
クロストキシン、ロタウイルス迅速検査